



阿波安永實錄

十一

~ 13
3362
11



13
3362
11

二十五
寶佳吉屋
卯共衛



河漢安永實錄傳卷十一

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部



目錄

- 一 田中氏伸の後の家の能の作の後
 大在の為の妻と切の殺と事一
- 一 佐の友の大の右の出の能の殺と事一
の事一

河漢安永実録傳書(十一)

田中八仲の後家^の院依^て及人^を是^の
が要^せ成^す即^ち殺^すと^す事^{なり}

此^の後^に是^の院^を殺^すも^も余^の事^{なり}

玄^の種^は福^の田^の九^の節^を傳^へ友^と智^の孫^と以^て

凡^の仲^と殺^せし^る家^を書^すと^りは^りす^事也^{なり}

以^て助^とと^りし^る拷^問し^る事^也

流^す石^下節^の事^{なり}と^りた^る拷^問し^る事^也

弟をよと家書と福田より来るなり
今ののうれざる不たしと沙をも白状
しるべきを切らひ物と禁獄し
そ外六人の者も同類としてあり
こまごまも秋討成勢とつるを彼ら
せらへ流布せん事とあれて皆々
所及掌より入る母又安達階なる
麻呂を門首と秋意の形の事と

あつりし中送り母又此件が件
定み所并母親の徳と秋の候
子ら母と家書より告知せそ外
大谷執権と西尾教三が方と
いさなりし中送り秋佐良大なる
事陸路海路なることありしを
し無事とせられざるやと云ふ
魚と鯉と送り母又

56

57

將定み節 術之信と云ふは
お徳凡圓中(未定)と云ふは
りらよと定み節 世平と云ふは
大のよ知(知)びおと秋(秋)は依(依)反(反)大(大)志(志)
る(る)や新(新)さ(さ)中(中)男(男)以(以)節(節)中(中)案(案)
内(内)一(一)父(父)の病(病)中(中)一(一)節(節)中(中)秋(秋)
る(る)節(節)の(の)内(内)一(一)節(節)中(中)一(一)節(節)中(中)秋(秋)
一(一)世(世)れ(れ)い(い)う(う)年(年)り(り)所(所)を(を)ぬ(ぬ)し(し)よ(よ)

ことごとく 福田友の信(信)節(節)知(知)年(年)と云(云)
秋(秋)と大(大)志(志)と知(知)し(し)る(る)事(事)の(の)始(始)
一(一)し(し)よ(よ)秋(秋)節(節)中(中)一(一)節(節)中(中)秋(秋)
き(き)を(を)い(い)は(は)依(依)反(反)大(大)志(志)一(一)付(付)と
眼(眼)と一(一)し(し)し(し)牙(牙)と云(云)一(一)節(節)中(中)一(一)節(節)中(中)
鬼(鬼)神(神)の(の)ご(ご)一(一)今(今)年(年)一(一)十(十)八(八)支(支)ら(ら)れ
と(と)も(も)え(え)事(事)を(を)姓(姓)と云(云)一(一)節(節)中(中)一(一)節(節)中(中)
お(お)く(く)一(一)と(と)春(春)を(を)天(天)信(信)高(高)傑(傑)と云(云)

成なりぐり骨ほね柄がらなりは花はなは福田後ごも
急いそ利りといふは後と定の所急いそ
申まをして後ご員いん圓えん本ほんとこしく
いそといは花は彼た仲が好家か
の院い院と依及大生つと時なも
只ただあら後ごとゆといをいといと
花はなとしと將定ぜいの所あらはは
と後といと後のやといと成て

55

花はなといと定の所あらはは
初はつめとといといと創依い血けつとい
本ほんといといと依といとい
分ぶんといといといといとい
及およびしといといといとい
身みといといといといとい
あらといといといといとい
方かたといといといといとい

56

もるし余りの事。種牌しゅがせがれのあ
 けしを知らざる事。我々程
 うれぬまじり。お籠かごの情なさけの方かた
 にもあてを捕とらのあまらぬんて
 む子こ撫なでさるりまらくとまら
 眼まなこといふし。身みとくをぬりく
 け情なさけや情なさけや。款かたの依よ及およた。まら
 しく愛あいも。知しらぬとあざむれ。

三月の款。く知しらぬと款かたの事ことと
 款かたの事ことと知しらぬ。由よし何なに年としと
 の款かたと。年としあまらぬ。教しよ年としと
 せ。負おと女の事こと。方かたと款かたの事こと
 と。付つく。と。と。様さま。身みと
 福ふく。割わりさ。神かみ。方かたと。意いと。と。と。
 ふ。み。と。又また。神かみ。三月しんがつが。と。と。と。
 む。け。ん。お。女めの。に。く。と。と。と。と。と。

打ゆり歌よ礼と少後くさるに備
さよまいこぞや弟を父の蔭とて
膝をのりん歌をや已依反大志
世修よまをまへて唯今首討て
まの墓をくまの石をのりて
せん定み所は何方始まやと尋
りれども何方まへに知れされが
観月ありて種介歌依反

大志をいふと討るん汝も始まらば
しと云のりてまがなま代長光の力
備前所の名備後よまうとて
と礼とてくさるに引光中を
歌よ色く胃の蔭よ形とくさる
も討るん内とまひひめらる
て之里の道と花がくさる大志の
依反大志ありて急きや

是女の儀あきり智恵あふあるは福田九
市之儀いしといふ後うしろ揃そろと持も持もり
おお儀ぎももせせびびはは家けもも交まじもも割わり
将定しょうじやうのの御ごもも侍ざむらいもも一ひととと祇ぎを
人ひと欠かせせしし本ほん儀ぎはは女にのの結むす
儀ぎ方かた変へん振びととらられれたたのの儀ぎりり牙か
りりととななりり借かりりとと一ひととと空くうをを成なり
款くわんとと教けう初はつととせんせんららとと大だい七しち五ご

は欲ほりりてて牙かとと禪ぜん一ひととと禪ぜん
一ひとととああままののささのの儀ぎりり方かたとと意い
ああままのの儀ぎりりとと女にのの儀ぎりり初はつ中ちゆう
審しんりり大だい七しち五ごのの儀ぎりり持も運うんび
丈ぢやうのの款くわんがが付つ及およ斗とああのの儀ぎりりとと女に
丈ぢやうのの文ぶん釋しやく丈ぢやうとと名なくくもも中ちゆうのの女にれ
ををめめりり一ひと寸すんととししままししるるをを名な案あん
一ひと月げつおお儀ぎももららとと粒つぶのの儀ぎりり小せう

かろもー大右衛門と討ちあんと大
ひよせまぬとくえんこれか人も
いふぬ後次の子とくあま
いづらの後あまをせられた
も程りふん。

左衛門後次あお殿の御神代
如く後次とくえんの后とあま
のこゝろとくえんはそ夜の御

比大右衛門の室よふか守門の
声とくえん大右衛門の女とあま
とくえんとくえんは内とくえん
声とくえんとくえんは内とくえん
他の後次とくえんは内とくえん
あれをの御大右衛門の御
歯とくえんとくえんは内とくえん
門の御とくえんは内とくえん

あり定^{ちやう}と彼^かありは^はり^りと^とを^を
し^して^てし^しつ^つと^と彼^か所^{しよ}に^に居^いる^るを^を
公^{こう}に^にし^しる^るに^にさ^さら^らし^して^てし^しる^るに^にさ^さら^らし^して^て
柳^{りゅう}川^{せん}とい^いふ^ふに^に大^{だい}に^にあ^あら^らわ^わる^るに^に
里^り邊^{へん}の^の方^{かた}に^にと^とん^んを^をし^して^て大^{だい}に^にあ^あら^らわ^わる^る
に^に定^{ちやう}と^と世^よに^にあ^あら^らわ^わる^るに^にし^して^て又^{また}
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に柳^{りゅう}川^{せん}と^とい^いふ^ふに^に急^{いそ}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に今^{いま}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に

方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に
お^おた^たい^いの^の方^{かた}に^にお^おた^たい^いの^の方^{かた}に^に



立お産と鳴りれいお籠りすと
内一とみり大お産の毎い何方よ
飛下りや御臨振室と公より
急の御心ごとしひりれむと安
余りお籠りさびし籠りし跡よ
常りしつ女の声りとあささ
お産御心なるのよあらしお産
お産りしとつと大お産の事い今日

世方一と余り中さびと町亭よ述
りれむお籠りいと怪しとあし産
爰一欠入りと籠り大とさささけ安
彼和と余りささささといと大お産
い交よんこを結子の方よ布を
かづりお産する者ありりれむお籠
まをさささ布をさしりさささ
りりといとお産を是いさあか

仕のり女なり 倭のい儀 今六段
あつて 彼妾と云ふ 押入 掃帚の
髪已も 歎の 同類なり 徳也と我
史田中入 仲く 徳中 といひ 結よ
神く 尚書と 行又 己が 行以 申し
身の 案因 こそ せり 依及 大右衛門
り 史太 仲と 教ふ せり 大罪人
比島 末孫の 大右衛門 己が 遠祖 有

ういふ 左 仲く 病 性 気 の 一 人 名
うけり 守り 守り 守り 守り 守り 守り
術 手 孫の 田中 左 仲く 討し て 又
向う 末 叶 といふ ごとく 討し 一
結よ 島 末 孫 有 守り 守り 守り 守り
大 右 衛門 の 左 仲く 史 太 右 衛門
させ 守り 守り 守り 守り 守り 守り
と 史 太 右 衛門 守り 守り 守り 守り 守り

道とやいふ金とをとりしり
今神の志暮とつひに夫の歌と
教へ知せん相とつとけり
暮ひと神大志と歌と
うもふび何年歌のまがり
来ぬんと大志つよれむれむ
禰と牙禰禰とつと夫への
云須方とまやゆふ二人が首と

と夫の暮よむのまもん
恨せよと彼とつとつと
我女とまやとつと下女が
つものまよふとつとつと
情自せよめつとつとつと
せんとお籠が市せつとつと
あつとつとつとつとつと
とつとつとつとつとつと

え来百姓の娘やうきを食ふの
梅精の節由目よ南して引と
らましる女をれだじ御術のむね
もるゝ母抱と指とめりまご一
やと知れととのた今形のおく
近月なるさざるも後の場をうれが
近る車もけひ難くお籠投あ
せし物えとあるひし後うさ

くま向ふありお籠の急て御術
形保の本うれむ人喜あけく
名乗りけ尚時中陽辰重を食の
執控回中友仲が女房主の歌
飲をせよと仰るをれい喜も候
りおとじし願しとみかひし
何くゆりしとまらさお籠の御術
自保の者うれい喜あけく梅

斗もゆるしんまり忍びし母物と打うたれ
あはれしなまけりしと遊あそんでいそろふ
あはれしあはれの者あはれの者あはれの者あはれの者あはれ
未あひんいの者あひの者あひの者あひの者あひ
物あひの者あひの者あひの者あひの者あひ
たののあひのあひのあひのあひのあひ

いりしとく切らげある言あひ一
云あひのあひのあひのあひのあひ
死あひのあひのあひのあひのあひ
てあひのあひのあひのあひのあひ
身あひのあひのあひのあひのあひ
のあひのあひのあひのあひのあひ
とあひのあひのあひのあひのあひのあひ
ああひのあひのあひのあひのあひのあひ

休めりし御ふは修夜大石垂りて言
見方の御うけし山五百日身が而之聲
しもせぬといし白麻皮のひく余
祇のうらみそれぬ敷九つ時方身が
うそ来りしゆらうとて入らん
ぢり布まついのうとぬれぬれ
ゆふに燈火のあかり影をたもむ之
石垂りしひけりやんかき茶

師代千ちひは寝るまゝのゆめ
うそゆめをききあそぶよの海に衣
垂りしるるもすくなくもか推
しるる大石垂りしゆも秋す日
中左傳大石垂りしゆも秋す日
ゆめゆめの中なるゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

あやいさうはをさくも肌方被褥
せたるや我曲成結るる音あも知
す結成討交斗りあも力を穢し金
こよ形と合すも音まをく歌成る
は曲るもまじりてあも討有る其之
い曲が首あもく又の美奈帯も音ま
あやいさうのまじりて我之
は曲成結るる音あも知

あやいさうはをさくも肌方被褥
せたるや我曲成結るる音あも知
す結成討交斗りあも力を穢し金
こよ形と合すも音まをく歌成る
は曲るもまじりてあも討有る其之
い曲が首あもく又の美奈帯も音ま
あやいさうのまじりて我之
は曲成結るる音あも知

病。も、我男は、
此今海家のもの、
あも、の、
まゝ、
中、
少、
と、
く、

い、
う、
と、
と、
と、
と、
と、
と、
と、
と、
と、

ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは
ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは
ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは

ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは
ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは
ふしつは法程くばまされしもの
いふんはやく秋葉のたぐひは
河原のたぐひは秋葉のたぐひは

たねが昔より持込人より途申せり
人の心算入るは心算行心の地也
を徳也七子持込人申すは申す
代長光の刀より徳也
の利より者なり徳也
くみ難中なるを徳也
のゆく大なるを徳也
り申入るは徳也

きりきりきりきりきりきり
いふことしはみははははははは
東大なるは徳也
徳也を徳也
と申すは徳也
も透すは徳也
く申すは徳也
印書なるは徳也

飛越すじろ松とみく二とて
一と梅よりれが松が切甘一なり
大石のつたりのも角と切さきつたの
みきくはゆかり梅子いそ車なりれが
しも松をすらす流しきくは
ちり梅子梅子いそ車なりれが
こつまのき倒しそ松が切甘
しうしとそり梅子いそ車なりれが

し印し切付るあまの松の連やを
きうりん梅子いそ車なりれが
しあそしめきそ松が切甘
今いけそあ松のりよんしめき
松をすそ松のりよんしめき
松をすそ松のりよんしめき
松をすそ松のりよんしめき
松をすそ松のりよんしめき
松をすそ松のりよんしめき

ある能女也... 終末の
事よの事... せひ初年
かむ... 念仏と事よ...
是... 是行... 紙布と...
引けて所よ... する...
数多の... 女...
... 喜の...
... 向

の田れ... 紙... 知...
迎...
登任吉屋
奉卯平衛
喜



